

# 東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年1月27日】第70号



## 学校説明会

1月15日(金)の夕刻および16日(土)の午前中、オンライン(Zoom ウェビナー)で、この秋あるいはそれ以降に農大稲花小の入学をお考えのご家族向けに、学校説明会を計3回行いました。金曜日の夕方に学校説明会を行うのは初めてでしたが、各回ともたくさんのご家族に参加していただきました。

学校の教育理念、あるいは教育方針をご理解の上、受験についてお考えいただくことは、入学後の子どもたちや保護者の皆様が満足されるような教育や運営を行うために極めて重要です。農大稲花小では、正しい情報を発信するとともに、疑問に対して真摯にお答えしていくことが大切だと考えています。参加者からいただいたアンケートも有難く拝読し、よりよい広報を行う一助とさせていただきます。

## 授業参観

1月18日(月)と19日(火)、農大稲花小ではオンライン(Zoom)による授業参観が行われました。本年度、2回目の取り組みとなります。各組とも、それぞれの担任が指導する1科目(国語、算数、道徳)と英語科の授業、合計2コマを、教室に設置したタブレットのカメラから、保護者の皆さんに配信しました。新型コロナウイルス感染防止のため、授業で大きな声を出すことができません。子どもたち同士で顔を寄せ合って相談したりすることもできません。英語では、いつもなら楽しい歌やゲームなどのアクティビティも控え目です。そのため、やや静かな授業でしたが、子どもたちはカメラを気にすることなく、普段のように学習に取り組んでいました。

わが子がよそ見をしている、姿勢が悪い、聞いているのかな? など、心配なところばかりが目についたという保護者もいらっしゃるかもしれません。しかし、子どもたちの誰もが、先生の方をまっすぐに見つめ、友だちとも仲良く過ごしているその姿こそが大切です。子どもたちがそれぞれの発達に合わせてがんばっている様子を、ご覧いただけたことを願っています。

1昨年、農大稲花小がスタートして最初の保護者会では、36名の各クラスに60名以上の保護者が参観にいらしてくださったため、教室の中はそれこそ立錫の余地もない状況でした。今、その時の画像を見ますと、子どもたちはよくもこのように混雑した環境で授業を受けていたものと感じてしまうくらいです。オンラインによる授業参観の良さは、第一に、子どもたちの普段の様子を見ていただけること、そして第二に、保護者にはご自宅でも、場合によってはご自宅以外か

らでも時間さえあれば、参観していただけることなどがあるでしょう。授業参観後のアンケートでも、有意義なご意見をたくさんいただきました。本校ではこれからも、今までご覧いただいていない授業科目の配信や、休み時間や給食の様子の配信などを含め、新しい授業参観の形を考えてまいります。

### 保護者会もZoomで開催

1月23日(土)には、オンラインによる本年度第2回目の保護者会を開催しました。ウェビナーを利用した全体会では、校長、教頭、そして、稲花タイム担当教諭、養護教諭、栄養教諭からのお話をさせていただきました。その後は、各組に分かれて担任と保護者の懇談を行いました。保護者との懇談では、保護者の皆様を6人ずつのグループに分けて話し合う機会を作るブレイクアウトを行い、より寛いだ意見交換の場としてみました。

農大稲花小の保護者はどなたも、日ごろからオンラインに慣れておられるので、このような運営に戸惑うことがなく、学校としては心強いところです。運営の方法についてはまだ工夫が必要だと自戒していますが、オンラインの良さはこれからも活用していきたいと考えています。同時に、感染を心配することなく、保護者の皆様とまた学校でお目にかかれるような日が早く来ることを、改めて願った保護者会でした。

なお、保護者会で校長からは、新型コロナウイルス感染防止対策へのご協力の御礼を申し上げるとともに、農大稲花小の教育指針「10の能力」を着実に身につけ、「冒険心」のある子どもとして卒業してほしいという願いをお伝えしました。真の学力を身につけるためには、低学年の今こそ、「10の能力」に示される態度・姿勢を身につけることが大切です。まだ習っていないたくさんの漢字が書けたり、上級学年の算数ができたりしたとしても(それはそれで努力の結果ではありますが)、今、授業で習っていることがしっかり理解できていなければ、さらには、前向きに授業に取り組む姿勢、友だちと助け合う気持ちが身についていなければ、土台のできていない積み木と一緒に高く積み上げたとしても、どこかで崩れてしまう恐れがあるのではないのでしょうか。楽しみ、喜びを感じながら学び続ける子どもを育てることを願って、お話をさせていただきました。

### たくさんのシクラメン

隣接する東京農業大学第一高等学校・中等部から、卒業生が栽培された立派なシクラメンをたくさんいただきました。こんなにたくさんのシクラメンが飾られている小学校は、ほかには無いのではないのでしょうか。やさしいピンクや赤のシクラメンを見ると、農大稲花小の子どもたちがたくさんの温かい眼差しに見守られていることを感じます。

本校に飾られていた中高生の段ボールアートは今、東京農業大学の研究棟「サイエンスポート」

に展示されています。小学校から大学・大学院までそろった一つの学園の中で、農大稲花小の子どもたちが育っているのです。



本校の玄関に並べられたシクラメン



農大サイエンスポートに展示された段ボールアート

### 丑年に因んで

グラウンドが霜で真っ白になるような朝でも、子どもたちは元気に登校してきます。子どもたちが通る職員室の窓辺には、福島県の民芸品である「赤べこ」とマレーシアからの水牛の角を飾ってみました。「赤べこ」が赤いのは、かつて猛威を振るい、今では完全に制覇されたウイルス病である天然痘から子どもを守るためだと聞きました。

丑年に因み、アジアやアフリカの国々で校長が見てきた様々な牛の姿について、在校生限定の「在校生メニュー」を通し、子どもたちや保護者にご紹介しました。一口に牛といっても、自然環境や社会環境によって、種類も、使われ方も様々です。丑年の機会に、農大稲花小の子どもたちには牛に親しむだけでなく、世界が多様であることの面白さ、すばらしさを感じ、多様性を受け入れる柔軟性を持ってほしいと願っています。



赤べこト水牛の角



巨大な角をもつアンコーレ牛  
(ウガンダ)



牛を連れた少年(タンザニア)



### 「グラウンド人工芝の霜」

もうすぐ、春です。4月で本校も3年目を迎えます。

校長 夏秋 啓子